

群 教 七	G09 - 02
	令3.278集
	英語 - 中

自分の考えや気持ちをまとまりのある 英語の文章で書くことのできる生徒の育成

— 1人1台端末を活用し、内容面の質を向上させる
活動を通して —

特別研修員 金子 正和

I 研究テーマ設定の理由

令和元年、文部科学省は「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT環境の実現」に向け、「GIGAスクール構想」を打ち出し、児童生徒一人一人に ICT端末を配付した。これにより、学習活動の一層の充実や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に対する期待が高まった。

多くの生徒が「書くこと」の領域に苦手意識をもっていて、一昨年度の全国学力・学習状況調査では、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」設問の正答率が非常に低く、まとまりのある文章を書く力に課題が残った。

そこで、本研究では、1人1台端末を用いて、デジタルホワイトボードを活用することで、文章の内容面の質を高め、自分の考えや気持ちをまとまりのある英語の文章で書くことのできる生徒の育成を図ることができると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図

自分の考えや気持ちをまとまりのある英語の文章で書くことのできる生徒

手立て1
伝えたいことを整理するための
アイデアマップの共有

- 自分の伝えたいことについて情報を収集できるようにする
- 何を、どのような順番で伝えればよいか整理できるようにする
- アイデアマップを共有し、自分の内容面の振り返りができるようにする

内容面の質の向上

手立て2
整理した文章を再構成するための
チェックリストの活用

- 読み手に分かりやすい「導入—本文—まとめ」の段落構成で書けるようにする
- 読み手の興味を惹きつけるような文を書けるようにする
- 自分の伝えたいことについて具体的に書けるようにする
- お互いの文章を内容的に相互評価できるようにする

1人1台端末の活用



生徒の実態：「書くこと」の領域に苦手意識をもっていて、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書けない生徒が多い。

2 授業改善に向けた手立て

単元を通して、次の二つの活動を手立てとし、生徒が自分の考えや気持ちをまとまりのある英語の文章で書くことができるようにする。

1人1台端末を活用した、

手立て1 伝えたいことを整理するためのアイデアマップの共有

手立て2 整理した文章を再構成するためのチェックリストの活用

手立て1について

自分の伝えたいことについて情報を収集し、何を、どのような順番で伝えればよいか整理するためにアイデアマップを作成する。その上で、作成したアイデアマップを端末上で共有し、友達と確認し合った上で必要に応じて参考にしたりすることで、自分の内容について再度整理し、修正や加筆をし、内容面の質を向上させ、まとまりのある英文を書くことができるようにする。

手立て2について

内容面の質を高めるため、読み手に分かりやすい「導入—本文—まとめ」のような段落構成、興味を惹きつけるような文、具体的に伝えることなどを意識して文章を再構成する。それを、チェックリストを活用し、端末上で相互評価することで、友達からの評価を参考にし、内容面の質を向上させ、まとまりのある英語の文章を書くことができるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1について、端末を活用し、アイデアマップを共有したことで、自分が書いた文章について多くの友達から効率的に感想やアドバイスをもらうことができ、自分の内容面の振り返りができるとともに、何をどのような順番で伝えればよいか整理できるようになり、内容面の質の向上につながった。
- 手立て2について、デジタルホワイトボードを活用し、チェックリストの項目を基に文章相互評価したことで、グループの作業の状況を確認しながら、「もっと具体的に書くとよい」「導入の文で読み手の興味を惹くようにするとよい」などのアドバイスを基に文章を再構成することができ、多くの生徒の文量が増えるとともに、内容面の質の向上につながった。
- 友達の文章に対して感想やアドバイスを書く活動では、書き込んだ内容がグループ全員の端末上に反映されるため、友達へのアドバイスでも、参考にして自身の文章を改善することができる利点もあった。
- デジタルホワイトボードを活用したことは、生徒同士の思考を深めるだけでなく、教師の端末から生徒の作業の進捗状況を確認することができ、即時的な指導に生かせるという利点があった。
- お互いの英語の文章を共有したことで、単語や文法に間違いがないかチェックすることにもなり、文章の正確性が高まるなど、言語面の質の向上にもつながった。

2 課題

- 手立て1・2ともに、英語が得意な生徒は、友達の原稿に感想やアドバイスを送ることができる反面、友達からのアドバイスを得にくく、内容面の質を向上をさせにくかった。グループ編成の仕方を工夫する必要がある。
- 手立て2について、デジタルホワイトボードを活用する場面では、グループ内で別々に作業をするよりも、一人の文章に対してグループ全体でチェックをする展開にした方が同時に意見交流することができ、考えが深まったと考えられる。
- 端末の扱いに慣れるまで時間がかかり、端末を活用したことでかえって効率が悪くなってしまった面もあった。どのような場面で端末を活用することが効果的であるか、今後検証しつつ、ICT 端末を使い続けていくことが重要である。

実践例

1 単元名 「Our Project8 あなたの町を世界にPRしよう」 (第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、コロナ終息後、多くの外国人が太田市に行きたいという気持ちをもつことができるよう、太田市の観光地や食文化など、調べた情報や自分の伝えたいことを整理し、太田市の魅力をPRするための英語の文をグループで書き、インターネットを通して世界に発信するものである。まず、太田市の魅力をPRするためにどのようなことを伝えるか、グループで役割を考え、試しの活動として英文を書く。次に、自分の伝えたい内容や順番を整理するためにアイデアマップを作成し、端末を活用し、グループでアイデアマップを共有する。友達へアドバイスをすると同時に、自分の内容面の振り返りをし、戻ってきたアイデアマップに従い、英作文を行う。その際、チェックリストを提示し、どのような点に注意しながら書けばまとまりのある英語の文章に近づけるか確認する。そして、お互いの文章を端末上で共有し、チェックリストを用いて相互評価する活動を展開する。デジタルホワイトボードを活用し、友達から感想やアドバイスをもらう中で、読み手に分かりやすい文章構成や表現を考えながら、まとまりのある文章を書けるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	コロナ終息後、多くの外国人が太田市に行きたいという気持ちをもつことができるよう、太田市の観光地や食文化など、調べた情報や自分の伝えたいことを整理し、太田市の魅力をPRするためのまとまりのある英語の文章を書くことができる。	
評価 規 準	<p>(1) 太田市の観光地や食文化など、既習表現を用いて、太田市の魅力をPRするための英語の文章を書く技能を身に付けている。</p> <p>(2) コロナ終息後、多くの外国人が太田市に行きたいという気持ちをもつことができるよう、太田市の観光地や食文化などについて、調べた情報や自分の伝えたいことを整理し、読み手に分かりやすいような文章構成や表現を考えながら、太田市の魅力をPRするためのまとまりのある英語の文章を書いている。</p> <p>(3) コロナ終息後、多くの外国人が太田市に行きたいという気持ちをもつことができるよう、太田市の観光地や食文化などについて、調べた情報や自分の伝えたいことを理解し、読み手に分かりやすいような文章構成や表現を考えながら、太田市の魅力をPRするためのまとまりのある英語の文章を書くとしている。</p>	
過程	時間	主な学習活動
つか	第1時	・太田市の観光地や食文化など、太田市の魅力をPRするための英語の文章をグループで書くために、役割を考え、書く活動(試しの活動)を通して、どのように文章を書けばよいか、内容や表現について考える。
追究する	第2時	・太田市の魅力をPRするために、自分の伝えたいことについてアイデアマップを作成したり、1人1台端末を活用して調べたりする活動を通して、どのような内容にすればよいか考える。
	第3時	・アイデアマップや調べた情報を基に、太田市の魅力を英語の文章で書く。
	第4時	・1人1台端末を活用し、チェックリストを基に友達から感想やアドバイスをもらいながら、読み手に分かりやすいような文章構成や表現を考える活動を通して、まとまりのある文章を書く。
まとめ	第5時	・友達からもらった感想やアドバイスを基に清書する活動を通して、太田市の観光地や食文化など、太田市の魅力を英語の文章で書く。

3 具体化した手立てについて

生徒は、太田市の魅力をPRするために、自分の伝えたいことを整理したアイデアマップを端末上で共有し、友達へアドバイスをすると同時に、自分の内容面の振り返りができるようにした。その後、戻ってきたアイデアマップに従って修正・加筆した文章を写真撮影し、デジタルホワイトボードに貼り付け、グループ全員が閲覧・編集できるようにした上で、チェックリストを活用し、お互いの文章に感想やアドバイスを送る活動をした。

手立て1

本単元では、太田市の魅力をPRするため、生徒一人一人が食文化や観光地などテーマを決め、何を、どのような順番で伝えればよいか整理するためのアイデアマップを作成した。小グループで、端末上でそれぞれのアイデアマップを共有し、友達のマップに付け加えられる内容があれば、違う色で書き加えた。また、戻ってきたアイデアマップに従って、文章を修正・加筆した。

手立て2

本単元では、まとまりのある英語の文章を書くことができるよう、チェックリストの項目を意識し、文章を書いた。その後、デジタルホワイトボードを用いてお互いの文章を共有し、チェックリストの項目を基に、まとまりのある文章にするという視点で相互評価した。友達の評価を参考に再度推敲し、まとまりのある文章となるよう、内容面の質の向上を図った。

チェックリスト

- 「導入—本文—まとめ」のような、読み手に分かりやすい段落構成になっているか。
- 導入として、読み手の興味を惹きつけるような文が書かれているか。
- 本文中に、紹介したいものの理由や、文と文のつながりを示す語句などが効果的に用いられているか。
- 本文を読むことで太田市を訪れた外国人がいつ、どこで、何をすればよいか具体的に分かるか。
- まとめとして、紹介したいものに対する気持ちや太田市を訪れる外国人へのメッセージなどが書かれているか。

4 授業の実際

本単元において、以下の二つの手立てを講じ、試しの活動として書いた原稿、アイデアマップを作成して書いた原稿、チェックリストを基に端末上で友達からアドバイスをもらった後に書いた原稿を比較し、生徒の変容を見取った。

(1) 1人1台端末を活用した、伝えたいことを整理するためのアイデアマップ

試しの活動として、太田市の魅力を伝えるための文章を事前準備のない状態で書かせたが、半数の生徒が2、3文程度しか書けなかった。生徒に理由を尋ねると、「何を書けばよいか分からない」「どのような順番で伝えればよいか分からない」とのことであった。そこで、伝えたいことに関するキーワードを書き出し、伝えたい内容や順番を整理するために、図1のようにアイデアマップを作成し、端末上で友達と共有した。友達のアイデアマップにアドバイスをしたり内容を書き足したりし、内容面での発想が膨らむようにした。戻ってきたアイデアマップを基に文章を書いたところ、大半の生徒が段落構成や伝える順番を意識して書くことができた。

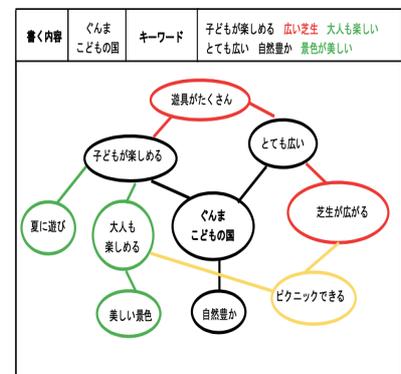


図1 アイデアマップ

(2) 1人1台端末を活用した、整理した文章を再構成するためのチェックリストの活用

アイデアマップに従って文章を書かせる際、チェックリストを提示し、読み手に分かりやすい段落構成や興味を惹きつけるような文を書くことなど、まとまりのある英語の文章を書く上で重要な点について確認した。その上で、自分の書いた文章を写真撮影し、デジタルホワイトボードを用いて共有し、チェックリストの項目を基に、まとまりのある文章にするという視点でお互いに相互評価した。図2のように、生徒は座席を向かい合わせ、端末上でお互いの文章を読み合い、タッチペンを使用したり、テキストボックス機能を活用したりし、端末上に感想やアドバイスを書き合った。生徒ごとに色分けをし、コメントの送り主が分かるよう



図2 相互評価の作業の様子①

にするとともに、活発に交流が行われるように「〇〇についてもっと書くといいよ」「〇〇という表現を使ったほうがいいのでは?」と自由にコメントを書き合った(図3)。また、感想やアドバイスは即時的に小グループ全員の端末に反映されるので、自分に対する評価でなくても、友達に対する感想やアドバイスを読むことで、自分の文章を再構成する上での参考となった。

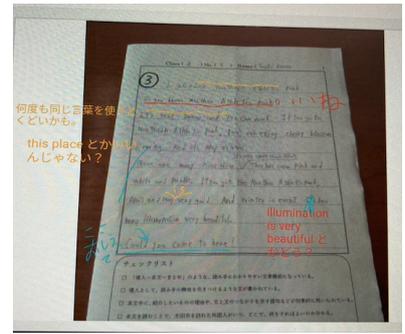


図3 相互評価の作業の様子②

相互評価をした後、友達の評価を参考に再度推敲した(図4)。チェックリストの項目を基に相互評価をしたが、結果として、お互いの単語や文法のミスを訂正したり、より適切な表現を教え合ったりすることにもつながり、内容面だけでなく、言語面の質も向上し、正確性が高まった。



図4 文章を再度推敲する様子

結果、試しの活動として書いた原稿、アイデアマップを作成して書いた原稿、チェックリストを基に端末上で友達からアドバイスもらった後に書いた原稿を比較すると、内容面・言語面ともに質が高まった(図5、図6、図7)。

Do you like to play in the park? There are very nice big park in Ota. That is 'Kodomo-no-Kuni'. If you have a child, you can enjoy together.

図5 試しの活動として書いた文章

Which do you like playing sports, watching beautiful scenery or enjoying Japanese food? You can do those things in 'Kodomo-no-Kuni'.
If you come there with children, they can enjoy playing playground equipment, and they can enjoy playing in water summer.
Not only children, but also adults can enjoy. You can enjoy picnic with your family in open space with grass.
This park is very nice.

図6 アイデアマップを基に書いた文章

Which do you like the best: playing, watching beautiful scenery or enjoying Japanese food? You can enjoy all these things at Kodomo-no-Kuni!
There is playground equipment, pool in summer and so on. So, you can enjoy if you come with children! But, not only children but also adult can enjoy there. There is a good restaurant and open space with grass. We can enjoy Japanese food and enjoy picnic there. Ota city has a lot of very nice place like these. So, if you come here, you will have a nice day!!

図7 相互評価をした後に書いた文章

5 考察

試しの活動として書いた文章、アイデアマップを作成して書いた文章、友達からアドバイスもらった後に書いた文章を比較すると、91%の生徒が読み手に分かりやすい段落構成や読み手の興味を惹きつけるような文章が書けるようになっていた。また、全体的に、回数を重ねるごとに、「太田市を訪れた外国人が、いつ、どこで、何をすればよいのか」など、伝えたいことを具体的に書けるようになってきた。試しの活動やアイデアマップを作成して書いた原稿では、読み手に分かりやすい文章を書くことができなかった生徒も、端末上で文章を共有し、感想やコメントを送り合ったり教え合ったりする中で、友達の評価を参考に再度推敲し、内容面の質を高めることができたと考えられる。

また、1人1台端末を活用して、チェックリストの項目を参考にお互いの文章を相互評価したことは、内容面の質を高め、まとまりのある英語の文章を書くことにおいて、有効であったと言える。また、「コロナ終息後、多くの外国人が太田市に行きたい!という気持ちをもつことができるよう、太田市の魅力をPRする文をグループで書き、インターネットを通して世界に発信しよう」という生徒にとって必要感のある単元の課題を設定したことは、意欲を高める上でも有効であった。一方、チェックリストに「本文中に、紹介したいものの理由や、文と文のつながりを示す語句などが効果的に用いられている。」という項目に対して、相互評価している生徒は少なかった。生徒の文章を見ると、83%の生徒が紹介したいものの理由や、文と文のつながりを示す語句などが使われているものの、生徒にとってどのような点を評価すればよいのか分からなかったことが考えられる。チェックリストの項目を一つずつ順番に相互評価するなど、チェックリストの活用の仕方について工夫し、内容面の質をさらに高めていく必要があると考える。